

青丘文庫研究会

—第8回映像を通して見る—
まだ視ぬアーカイブを可視化する！

植民地主義とジェンダーを問う 関東大震災朝鮮人虐殺百年に抗して

第1部 上映:「80年前何があったのか～関東大震災の時、殺された中国人を悼む」(2003年制作/23分)

同時上映:『老華僑は黙らない(仮)』予告(監督:武田倫和)

トーク:林伯耀(神戸・南京を結ぶ会副代表)録画 武田倫和(映画監督)

第2部 関東大震災の流言飛語と大阪の朝鮮人—そして最近の虐殺事件矮小化の動向に対する記憶の継承の重要性

トーク:塚崎昌之(在日朝鮮人史研究者)

第3部 東京都人権部による《In-Mates》検閲・上映禁止が意味するもの

上映:《In-Mates》(2021/26分50秒/監督:飯山由貴)

同時上映:《家父長制を食べる》(2022/13分07秒/監督:飯山由貴)

トーク:飯山由貴(アーティスト) FUNI(詩人・ラッパー)

板垣竜太(同志社大学教授) 孫・片田・晶(立命館大学准教授)

パフォーマンス FUNI(郭正勲)のラップのライブ公演

日時:2023年9月10日(日)13時～

場所:在日韓国基督教教会館 (KCC会館5階ホール)

〒544-0032 大阪府大阪市生野区中川西2丁目6-10

■地下鉄千日前線・今里筋線「今里駅」②番出口から南へ徒歩15分

■市バス:中川西公園前 歩いてすぐ



在日韓国基督教教会館MAP

《資料代》1500円 学生割引1000円 *どなたでもご参加いただけます！

主催:青丘文庫研究会 神阪京華僑口述記録研究会 神戸映画資料館

【第1部】 上映:「80年前何があったのか～関東大震災の時、殺された中国人を悼む」(2003年)

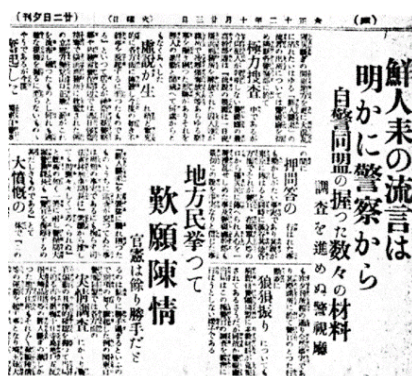
同時上映:ドキュメンタリー『老華僑は黙らない(仮)』予告(監督:武田倫和)

「80年前何があったのか～」上映後、華僑の立場から中国人の虐殺の事実と日本政府にその補償を求めて活動を続けている林伯耀さんを主人公としたドキュメンタリー『老華僑は黙らない(仮)』を製作している武田倫和監督に予告編の上映とトークを予定。「林さんは心は激しく熱く、そして差別や抑圧に苦しむ人々には絶対的優しさを持っている人です。そして、優しさこそ今の時代に一番欠けており、だからこそ絶対に必要なものであると思っています。また、日本での対中感情が悪化の一途をたどる今、林さんを中心に在日華僑の皆さんの『歴史と今の思い』を伝えたいという切なる思いがあります。」(武田倫和監督)



林伯耀さん『老華僑は黙らない(仮)』より

【第2部】 トーク:「関東大震災の流言飛語と大阪の朝鮮人—そして最近の虐殺事件矮小化の動向に対する記憶の継承の重要性」



『報知新聞』1923年10月23日

関東大震災の流言飛語は関東だけではなく関西でもあった。枚方の火薬庫を朝鮮人が襲うという流言飛語が広がったのだ。しかし、この話は全くのデマであったことは、当時大阪府知事であった藤沼庄平の『私の一生』(1957年)に描かれている。「戦後、民主主義社会になり、民主主義教育を受けた世代が広がっても、偏見は無くなったわけではなかった。最近では朝鮮人虐殺を忘れさせようとする動き、またSNSの発達によるデマ、ヘイトスピーチの拡散が容易になったことなどを考えると、きっちりした記憶を継承していかないと、再び関東大震災時と同様な虐殺、迫害、解雇といった惨事が在日朝鮮人や技能実習生などの外国人労働者の上に降りかかる事態が起こりかねない。だからこそ、関東大震災の朝鮮人虐殺の事実を途切れさせることなく、きちんと伝えていく大切さが痛感される。」(塚崎昌之 在日朝鮮人史研究者)

【第3部】 東京都人権部による《In-Mates》検閲・上映禁止が意味するもの

上映:《In-Mates》(2021/26分50秒/監督:飯山由貴) 同時上映:《家父長制を食べる》(2022/13分07秒/監督:飯山由貴)

《In-Mates》は1930年～40年に東京都内の王子脳病院に収容されていた朝鮮人患者AとBの診療日誌をもとに詩人でラッパーのFUNI(郭正勲)が演じる姿をアーティスト飯山由貴が映像化した作品である。東京都人権部はラッパーFUNIが演じる当時の彼らと今の在日が共通して抱える葛藤の表現や、外村大(東京大学教授)が「日本人が朝鮮人を殺したことは事実」と述べた場面などから、「関東大震災時の朝鮮人虐殺」を歴史的事実とすることへの懸念などを理由に上映を禁止した。その後、制作された《家父長制を食べる》の上映をし、板垣竜太(同志社大学教授)、孫・片田・晶(立命館大学准教授)、東京から飯山監督、川崎からFUNIを招いてトークを行う。「《In-Mates》という題名には『入院患者たち』『収容者たち』『仲間たち』などの複数の意味がある。」(飯山由貴監督)



王子脳病院の朝鮮人患者AとBの診療日誌



FUNI(郭正勲)

【パフォーマンス】FUNI(郭正勲)のラップのライブ公演

FUNI(フニ)ラッパー・詩人。2002年、東芝EMIよりラップユニット「KP」のFUNIとして活動を始める。2002年から2010年までにシングル2枚、アルバム5枚をリリース。2004年「NHKハンゲル講座」においてラップで講師も務める。2006年、金城一紀原作『GO』の舞台化において俳優、楽曲の提供。2010年よりプロデューサー兼トラックメーカーのOCTOPOD、ラッパーINHAとMewtant Homosapience結成。『ルポ 川崎』をきっかけにお蔵入りになっていたアルバム「KAWASAKI」をリリース。2015年よりアメリカ、ロシア、アフリカ、パレスチナ、イスラエルなどのスラムを旅しながら楽曲制作。川崎で生まれた在日2.5世、FUNI(郭正勲)を招請しパフォーマンス公演を行う。

【お問合せ】 電話078-754-8039(神戸映画資料館) 090-3622-3730(キム)

【E-Mail】 info@kobe-eiga.net(神戸映画資料館) hida@ksyc.jp(青丘文庫研究会)